

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	地域支援事業の推進
------	-----------

現状と課題

・剣淵町では平成 28 年(10 月 1 日現在)に、高齢化率が 37.8%と、同時期のわが国の高齢化率 27.3%と比べて高い水準であり、その後も高齢化率は増加傾向にある。平成 29 年 4 月から、多様な主体による介護予防と生活支援サービスの充実で、地域の支え合いの体制づくりや要支援者などに対する効果的かつ効率的な支援を行うことを目指す「介護予防・日常生活支援総合事業」を実施している。

・高齢者が元気に暮らしていくためには、生活習慣病予防の観点からの健康づくりと併せて、要支援・要介護状態になることを防ぐ介護予防が重要であり、そのために、介護保険制度に基づく地域支援事業を通じて介護予防を推進している。

第 7 期における具体的な取組

・介護予防・生活支援サービス事業
要支援認定者及び基本チェックリストにより把握された、閉じこもり・認知症、うつ等のおそれのある介護予防・生活支援サービス事業対象者を対象に、必要な支援を実施する。

目標（事業内容、指標等）

●通所型サービス A

緩和した基準の人員体制等で利用料を軽減。入浴、排せつ、食事等の介護、日常生活の世話や機能訓練を行うサービス。利用者の心身機能の維持とともに、社会的孤立の解消や家族の身体的・精神的負担の軽減も図る。

【平成 29 年度】実施回数：129 回（回/月）、延べ利用者：34 人（人/月）

→【平成 32 年度】実施回数：130 回（回/月）、延べ利用者：35 人（人/月）

●配食サービス

要支援者と事業対象者に、栄養バランスのとれた食事を提供し、対面で渡すことで一人暮らし高齢者などの安否の確認を行う。

【平成 29 年度】延人数：853 人 → 【平成 32 年度】延人数：900 人

目標の評価方法

● 時点

中間見直しあり

実績評価のみ

● 評価の方法

実績等による評価

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和2年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容

--

自己評価結果

--

課題と対応策

--

後期（実績評価）

実施内容

- 通所型サービスA
【令和2年度】実施回数：139回（回/月）、延べ利用者：31人（人/月）
- 配食サービス
【令和2年度】延人数：1602人

自己評価結果

- 通所型サービスA 【◎】
- 配食サービス 【◎】

課題と対応策

- 通所型サービスA
令和2年度の実績では、新型コロナの影響で利用者数に減少が見られたが、現在もデイサービス（通所系）のニーズは高いので、利用者の状態や意向を踏まえ、町内外の事業者でのサービス提供を支援していく。
- 配食サービス
軽度者でも、栄養改善や見守りを必要とする人が増加傾向である。ニーズの増加によりサービス供給体制の確保が課題となってきた。引き続き、現状のサービスを継続していける体制を確保する。